

たんぽぽだより



2020年 5月号

令和2年度は、どんな年になるだろうか？どんな楽しい事が待っているだろうか？と楽しみに始まったのに、小さな小さな目に見えないウイルスというものに、おびえる毎日、保護者の皆さまも不安でいっぱいだと思います。

今まで人間が全生態系のトップのように思っていたが、そうではない事を感じませんか？今まで当たり前だと思っていた、おしゃべりする事・触れ合える事・みんなで食事をする事・外に出て思いっきり遊ぶ事……上げればきりがありませんが、生きている事・いのちがある事ここにいる事、気にしていませんでしたが、**全てがありがたい【有難い(有ることが難しい)】**と思える今日この頃です。

たんぽぽでは、今まで主に食に重点を置いてきました。みそ・しょうゆ他調味料は出来るだけ、自然の物を選ぶようにとお話させていただいてきたと思います。日本人は昔から自然と共に生きてきました。自然には菌も必要です。

本物のみそ・しょうゆ・酢・納豆・日本酒・甘酒・塩麴・(キムチ・チーズ)など、これらは菌が無ければできません。菌によっておいしい料理が出来るのです。菌が入っていないものは偽物(〇〇風調味料、〇〇のようなもの)です。

全ての菌が悪いわけでは無いです。私たちにとって大事な菌もあるのです、だから除菌・殺菌と全ての菌を排除する事よりも、**バランスが大事**です。

例えば除菌して0になった状態の手にコロナちゃんが一番最初に付いたら、あっという間に手の上に広がりますよね。さらに免疫力が落ちていたらあっという間にからだ中に広がります。

でも、ここに体にとっていい働きをしてくれる菌ちゃんたちが居てくれたらコロナちゃんは広がる事ができません。数が増えることができなければ、コロナちゃんが居たとしても、重症にはなりません。ここに**今回のコロナショックを乗り越えるヒント**があるんじゃないかと思います。

だからコロナウイルスと戦うとか、がんと闘うとか病気と戦うと使われますが、本当に戦って良いのか？と思います。私は、コロナウイルスと共存する事が、一番いいと思っています。

それにはまず、**今までを見直す事が必要**だと思います。、便利さを追い求めることで、地球環境や、人として昔は、持っていた大事なものを失くしてしまっているんじゃないかと思います。

在宅勤務やさまざまな自粛によって、今地球の環境は、きれいになっていると言われています。しかし、また元通りの生活に戻ればまた地球は汚れ、私達の身体もさらに弱っていく事になると思います。

つまり元のように戻ってはいけないのじゃないのでしょうか？

きっと**自然と科学の融合・共存が目指すところ**です。

コロナショックの後はお互いをつぶし合う関係ではなく「**お互いに違いを認めて、お互いの良い所を活かし合う**」そんな進化した世界が待っているように思います。

4月の苦情・ご提案について
特にありませんでした。

保育サロン
たんぽぽ

今月の目標：心地よい環境の中で一人ひとりの楽しみを見つける。

つぼみ組【0歳児】：保育者に要求を受け止めてもらい、ゆったりとした雰囲気の中で機嫌よく過ごす。生活リズムを整え関わりの中で保育者に親しみを持つ。

もも組【1歳児】：保育者に自分の思いや欲求を受け止めてもらい、満足する。身体を動かして遊び、食事することに興味関心を持ち自分で食べられるようになる。

ゆり組【2歳児】：生活リズムを整え、安心して過ごす。挨拶や返事を交わし合い、心地よいことを知る。

5月の保育内容

養護

つぼみ組：適度な午前寝をすることで昼食時に眠気なく機嫌よく食事がとれるようにする。保育者との心地良いやり取りや1対1で十分に触れ合い**スキンシップを大切に安心して過ごせるようにする。**

もも組：個々のリズムを大切に**欲求を満たしていく。**気温に合わせて衣服の調節、水分補給をこまめに行い、健康管理をする。一人ひとりの甘えなどの欲求に十分に関わる。子どもが興味関心を示したときは、丁寧に言葉かけし保育者も一緒に関わり**スキンシップ**を取る。

ゆり組：大型連休後、生活のリズムを予測し、体調や心情を予測して無理なく活動をする。**子どもの不安や欲求を受け止め、安心して過ごせるようにする。**

教育

つぼみ組：生活リズムや機嫌等に合わせて生活し、生理的欲求を満たしていく。舌でつぶせるくらいになる。「美味しいね」などの**言葉をかけながら**落ち着いた雰囲気の中で食事をとる。欲求や育ちに寄り添い関わりの中で遊びを**楽しみ保育者に親しみを**持つ。喃語のやり取りを楽しむ。天気の良い日はベビーカーで散歩に出掛け春を感じる。音の出る玩具を用意するなど興味や関心を広げていく。

もも組：色々な食材に興味を持ち、**自ら食べようと思えるように言葉かけ**をする。苦手な物を食べる時は、励まし、食べることが出来たら**一緒に喜ぶ。**物のやりとりを楽しんだり、子どもの発する言葉に共感し、「楽しいね」「うれしいね」と応答的に関わり、保育者とやり取りする心地よさを感じられるようにする。園庭で滑り台を滑ったり、自由に歩いたり、いろいろな姿勢で、体を十分に動かせるように環境を整える。滑り台で遊んでいるときは、すぐに対応できる位置で見守り安全に遊べるように配慮する。季節の歌や手遊び、わらべ歌を歌ったり音楽に合わせて踊ったり鈴やタンバリンなどの楽器を鳴らして楽しむ。

ゆり組：苦手なメニューや食材を、一口ずつでも頑張っ**て食べる。**畑の野菜やお花の水やりなどのお世話を喜んで**する。**保育者と**一緒に**トイレに行く。保育者に**手伝ってもらいながら**簡単な身の回りのことを一緒に**する。**友だちの**していることに興味**を持ち、同じことをしようとする。生活に必要な言葉が分かり、簡単な挨拶や返事をする。草花や虫など、発見したことを保育者や友だちに伝え、**一緒に**観察したり触ったりすることを**楽しむ。**リズム遊びや体操を楽しむ。